

楽しく学び、遊んでいた、大好きな大川小学校でたくさんの子どもが犠牲になりました。

あの日から私たちはずっと考えています。

子どもたちの小さな命が問いかけているものはなんだろうと。

小さな命の問いかける意味は、深く、重い。それに向き合いたいと思います。

何をいつまで、と思うかもしれません。その通りです。時間はどんどん過ぎていくのですから。

警報が鳴り響く寒い校庭で、子どもたちは危険を察し、逃げたがっていて、

それでも先生を信じて、指示をじっと待っていました。

その事実から目を背けてはいけないと思います。

あの日の校庭に目を凝らすことで、何か大切なことが見えてくるはずです。

悲しみは消えることはありません。でも、この悲しみはあの子たちの存在そのものです。

忘れる必要も、乗り越える必要もなく、いつもそばに感じていていいのだと思います。

あの日の校庭もそうでした。多くの人が、このままではいけないと感じています。

誰かが「そっちに行くな」と声をあげなければ。津波が来てからでは遅いのです。

そう考え、このタイミングで会を作りました。趣旨をご理解いただければと思います。

あなたの大好きな学校の
教室 廊下 校庭 体育館
風にそよいでた桜の花びら
空に向かってこいだブランコ
絵本といっしょに
バスを待っていた図書室
あの笑顔を忘れない
あの歌を忘れない
あの思い出を忘れない
あの悲しみも忘れない
「行ってきます」
あの朝の
いつもと同じ風景を
忘れない
どろだらけの教科書を
洗って 干して

